

平成 29 年度「熊本競輪事業検討会」報告資料(平成 29 年第 4 回定例会で説明)等から、昨日の経済分科会でご意見をいただいた「雇用状況」、「収支推計」、「関係団体等からの意見」について一部抜粋しています。数字等は平成 29 年度当時のものであり、今後、再開する検討会の中で精査してまいります。

1 熊本競輪場関連の雇用状況

熊本競輪場の関係者数・・・約 460 人（熊本地震前）⇒ 約 200 人（地震後）

関係者	地震前 (H28年4月)	地震後 (H29年4月)
市職員、会計年度任用職員	113	92
競輪関係団体（JKA、選手会）	124	79
機器保守、警備、清掃、食堂など	225	27
合 計	462	198

※ 地震後も、県内の百貨店の 1 店舗あたり従業員数（210 人）とほぼ同数を雇用

2 収支推計

① 全国競輪の売上

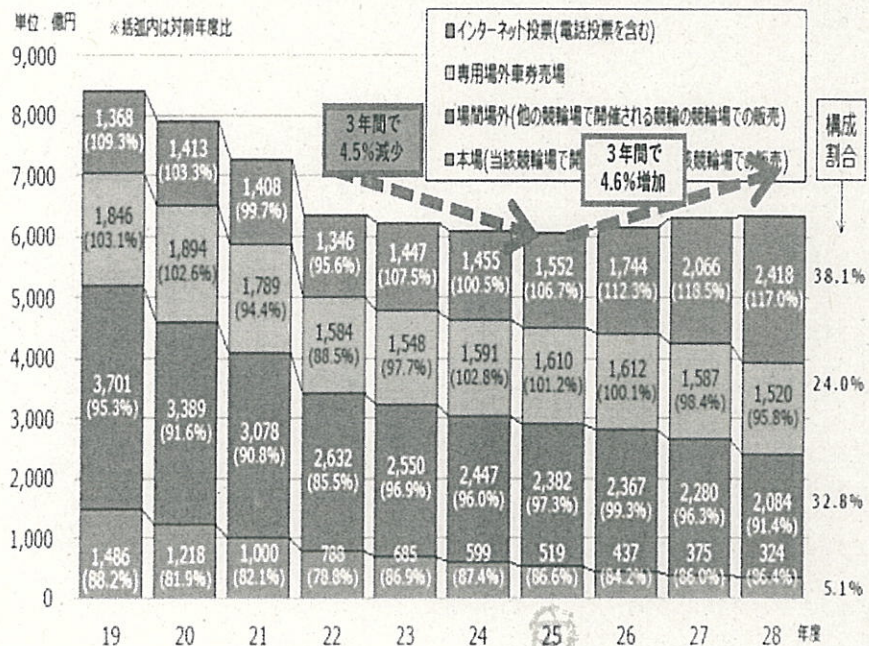
競輪売上高の推移

（経済産業省作成資料に3年間の増減率を記載）

●全国の車券売上は、H25年前3年間で4.5%減少。後3年間は4.6%増加

●本場・場間場外・専用場外の売上は減少。インターネット投票の売上が増加

●主な増加要因は、ミッドナイト競輪の開催日数・売上増加。



収支推計（１）：自場再開後、車券売上が+1.5%/年で推移する場合

収支推計（２）：自場再開後、車券売上が±０％／年で推移する場合

収支推計（３）：自場再開後、車券売上が－１.５％／年で推移する場合

[illegible]

3 自転車競技に関する意見（関係団体からの意見 抜粋）

- ① 熊本競輪場に対し、全国の自転車競技ファン、競輪ファン、高校の先生などから心配の声と励ましの言葉、同時に、新たな生まれ変わりができるのではとの期待が寄せられている。
- ② 熊本競輪場は熊本で唯一の自転車競技場。無くなれば代わりがない。自転車競技の振興・発展という側面からは状況は最悪。一日も早く日常を取り戻すため、前向きな検討をお願いする。
- ③ 熊本競輪場の利用者は、競輪選手のほか、自転車競技部の高校生、一般の自転車競技者、ロードレースの愛好家、スペシャルオリンピックス日本・熊本の自転車アスリート、パラリンピックを目指している車椅子ランナー。愛好家は出勤前の早朝から練習会、夕方からは簡易照明で夜間練習会を毎月実施。仕事帰りの方や小中学校の生徒にも好評。
- ④ 自転車競技部の高校生は、競技種目によっては熊本競輪場では練習ができず、また、大会の開催もできないため、宮崎県の競技場、久留米、武雄競輪場を借場し、練習や大会の開催をしている。必要以上の経費がかかり、地元で競輪場があった恩恵が大きかったと感じている。機材運搬や生徒の送迎などで、保護者、学校関係者の負担も大きい。